

令和3年度小学校動物飼育推進校 実践事例

－生命の尊さを実感させる継続的な動物飼育－



令和2・3年度 小学校動物飼育推進校

- 新宿区立東戸山小学校
- 世田谷区立太子堂小学校
- 中野区立白桜小学校
- 青梅市立第七小学校
- 青梅市立新町小学校

○令和3年度の実践事例

- ・衛生管理に係る実践事例
- ・体験活動に係る実践事例
- ・研修会に係る実践事例

各実践事例等については、東京都教育委員会ホームページに掲載しています。

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/animal.html>



推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。

★★

実践事例

新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

飼育環境委員会を中心にヤギの飼育を行い、生活科の中で1・2年生がヤギと継続的に触れ合う活動を行っています。これまでに助言していただいたことに加え、新たに気付いたことについても、学校担当獣医師に確認をしながら、飼育動物の環境をよりよくするために改善に取り組んでいます。



ハムスター飼育の許可を得る様子

特に、ヤギの様子に不安があった時には獣医師に健康診断をしていただいたり、餌の量や観察のポイントを指導していただいたりしました。

また、新たにハムスターを飼育するにあたり、飼育動物の特徴や配慮すべき点を事前に指導していただいたことで、児童が主体的に調べて、準備することができました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

ヤギやハムスターの適切な餌の量や体調を観察する際のポイントについて助言いただきました。ヤギが体調を崩すことがあったが、飼育小屋の改善や治療方法についての指導を受けました。また、ハムスターの飼育環境を整えるポイントについても指導を受けることができ、参考になりました。

ヤギの飼育活動に協力いただいているヤギボランティアの方々と、日頃の飼育活動について意見交換の場を設けることが感染症対策により難しかったので、学校を通じてボランティアの質問などを獣医師に伝えるなどして連携をとりました。

【児童の反応】

- 適切な餌や水の量、ふんや尿の処理の仕方、ヤギの健康状態の観察の仕方など、衛生管理について指導・助言をいただくことで、児童がよりよい飼育活動を心掛けるようになり、詳しく観察して、ヤギの様子や変化に気付くようになりました。
- ハムスターを飼育するのに当たって、学校担当獣医師に質問することができました。よりよい飼育について詳しく知ることで、児童が自信をもって、主体的に飼育活動に取り組むことができました。



実践事例

世田谷区立太子堂小学校

【実践の概要】

昨年度に引き続き、第5・6学年の飼育委員会の児童が、担当獣医師からウサギの飼育方法について指導・助言をいただきました。

ウサギは、今ではすっかり大人しくなり、人に触れられることにも抵抗がなくなりました。指導していただいたことを基に、ウサギが暮らしやすい飼育環境の維持に努めています。



獣医師による飼育環境の指導

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会活動時、ゲストティーチャーとして獣医師をお迎えし、実際に飼育小屋の環境やウサギの健康状態等を確認いただいた後に、指導・助言をいただきました。地域の飼育ボランティアの方にも参加していただきました。
- 学校支援コーディネーターの御協力により、週休日や祝日には、地域の飼育ボランティアの方が、餌や水等の補給や飼育小屋の清掃等、ウサギの世話をしてくださる体制が整いました。また、動物ふれあい教室でも、民生委員の方々が児童の衛生面の管理をしてくださいました。このように、地域の方々の協力の下、飼育活動を行うことができます。

【児童の反応】

- ウサギの体重を測ることで健康管理ができることや、ウサギは暑さに弱いので気温が上がったときには必ず日陰で飼育することなど、具体的なアドバイスをいただいたことで、ウサギの飼育方法についての理解を深めることができました。
- 獣医師から「昨年度に比べて、飼育環境が改善され、整っている。」との評価をいただいたことで、飼育活動に自信を持つことができました。
- ウサギと触れ合う機会を設定できたことで、以前よりも全校児童のウサギの飼育に関する意識が高まっています。



実践事例

中野区立白桜小学校

【実践の概要】

- 第5学年・第6学年の飼育委員会の児童が、モルモットやチャボが快適に過ごせるように、小屋の掃除、餌やりを毎日行っています。鯉への餌やりもかかさず行っています。
- 低学年児童・飼育委員会の児童が学校担当獣医師から、モルモットやチャボの飼育環境や衛生指導、モルモットやチャボが安心できる抱き方などの話を伺いました。
- 第2学年の児童は、毎日観察日誌をつけています。餌の量や生活の様子、気付いたことをまとめています。2月には、第1学年も、日誌の付け方について学びました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師に来ていただいて、適切なすみかの状態や、餌の種類や量についての助言をいただきました。

【児童の反応】

- モルモットにとって快適な環境について、本で調べただけでは分からないことなどを、直接獣医師から聞き、飼育に生かしました。
- 助言していただいたことをもとに、餌の補充を実践し適切に飼育をしようという高い意識をもっています。
- 掃除の時には、わらの始末をきれいに行い、モルモットが過ごしやすいようにわらの量を考えて補充しています。
- 教室では、透明のケージを使い、新聞紙を使って、ふんや尿などの様子がよく分かるようにし、清潔を保つようにしました。



実践事例

青梅市立第七小学校

【実践の概要】

- ウサギへの投薬の仕方を教わりました。
- ウサギの怪我の治療のために、獣医師の指導の下、足の裏を舐めないようにエリザベスカラーの作成方法を教わりました。
(投薬をしたが、改善が見られなかったため)



ウサギの治療に使用した注射器と薬（左）

獣医師からの助言で作成したエリザベスカラー（右）

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

ウサギが怪我をしてしまったので、学校で投薬ができるように投薬の仕方を指導していただき、教員が投薬を1か月ほど継続して実施しました。しかし、投薬を継続したものの、足のケガのただれが完治しませんでした。そこで、再度獣医師に相談し、投薬以外の方法を教えていただきました。

早速、学校の教職員と協力して学校のウサギに合うサイズのエリザベスカラーを作成し、ウサギが足の裏を舐めないように見守りながら、経過観察をしました。こうした取組の効果もあり、獣医師の診断により、完治が認められました。なお、獣医師の勧めもあり、ゲージから大きな小屋に移して、飼育することにしました。

【児童の反応】

- 注射器（針なし）で口から投与するため、児童は興味津々で、「先生何をしているのですか。」と質問する児童が多くいました。
- ウサギを仰向けにして抱っこして動かないようにして投与することから、「かわいそう。」などの声もありましたが、薬を飲むことで怪我の状態が回復し、健康な体に戻るということを説明していく中で、人もウサギも同じように治療していくことを学びました。
- 手作りのエリザベスカラーは、児童にも保護者にも人気で、みんなにますます、かわいがってもらえるようになりました。
- ウサギ飼育施設を自分たちで修繕しようという意識が育ち、第6学年児童の卒業制作としての活動につながりました。



実践事例

青梅市立新町小学校

【実践の概要】

- 第5学年・第6学年の飼育委員会の児童が、ウサギが快適に過ごせるように、毎日餌やりと小屋の掃除をしています。
- 飼育委員会では、当番を決め、中休みと昼休みに、ウサギの世話をしたりウサギを小屋の外に出して遊ばせたりするとともに、ウサギの様子を飼育日誌に記録しています。
- 夏の暑さや冬の寒さの対策として、飼育小屋の側面に日よけのよしずを立てかけたり、防寒のシートは貼ったりしました。また、手術後の体調管理が必要な時期は室内に入れ、室内でも飼育できる環境を整えました。



飼育小屋に防寒シートを貼りました

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会では、学校担当獣医師からウサギの生態や飼育を行う上で大切なことについてお話を伺う予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止になりました。そこで、昨年度指導していただいた内容を担当教諭より児童に伝え、今年度の飼育委員会の児童も飼育を行う上で大切なことを共有できるようにしました。
- 学校担当獣医師に、飼育環境管理のためのウサギの診察をしていただき、繁殖制限処置の手術が必要との診断でした。そこで、飼育している3羽のウサギの手術を行いました。

【児童の反応】

- 飼育委員会の児童は、飼育の仕方を知るだけでなく、なぜそのような世話をするのかをすることで、ウサギを大切にしようとする気持ちをもって飼育活動に当たることができました。

推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。

★★

実践事例

新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

ヤギやハムスターとの関わりをもつ中で児童が感じた疑問や思ったことを獣医師に尋ねたり、伝えたりする活動に取り組みました。また、児童と共に世話や触れ合い活動をする中で、ヤギ・ハムスターも児童も安心して触れ合える方法について教えていただいたり、獣医師の仕事、飼育動物以外の動物についての話もしていただいたりすることで、生命の尊さや動物愛護についての理解が深まりました。



ヤギ小屋を清掃する様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

事前に担当教員と学校担当獣医師とで打ち合わせを行いました。その際に、児童の疑問や飼育活動を行う中で不安なことを前もって伝えておくことで、児童に合った声掛けをすることができました。

【児童の反応】

- 第1、2学年では、動物が苦手な児童がいましたが、学校担当獣医師を通じた触れ合い体験を行うことで、積極的に接することが出来るようになってきています。
- 学校担当獣医師との触れ合い体験の学習を通して、動物をよく観察することで気持ちが分かるようになることを学びました。また、動物と仲良くなるには、動物の気持ちを考えてお世話することが大切であることを学び、生命の大切さに気付くことができました。



実践事例

世田谷区立太子堂小学校

【実践の概要】

「動物ふれあい体験」を実施するにあたり、担当獣医師から、事前にオンラインで獣医師の仕事の紹介や動物の特性、動物と触れ合うときに気を付けることなどについての指導・助言をしていただきました。

当日は、「うさぎとのふれあい」、「犬とのふれあい」、「じゅういさんのしごとどうぐ」の三つのコーナーに分かれて体験学習を行いました。



うさぎとのふれあい体験

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- それぞれのコーナーでは、学校支援コーディネーターと民生委員の方々に消毒や児童管理を徹底していただきました。おかげで、児童一人一人が、ウサギや犬と安心して関わることができました。しっかりと体験することができました。
- 学習活動の最後に聴診器でウサギや犬、人の心音を聴き比べる体験をしました。児童は、一生の間に鼓動を打つ回数はだいたい同じでも、鼓動の速さは動物によって違うことを知りました。触れ合いも含め、獣医師との連携なくしてはこのような大きな学習活動はできませんでした。

【児童の反応】

- 初めて動物と触れ合ったという児童が何人もいて、「温かい」「ふわふわして気持ちいい」といった、命のぬくもりを感じることができました。
- 「初めは怖かったけれど、触れ合うことができ怖くなくなった」という児童が多く、身近に飼育されているウサギについての心の距離感が縮まりました。ふれあい体験後には、休み時間にウサギ小屋でウサギに声を掛けたり、ウサギの観察をしたりする児童が増えました。



実践事例

中野区立白桜小学校

【実践の概要】

- 第2学年は毎日飼育小屋から教室にモルモットを連れて行き、教室でお世話を行っています。2月下旬から、1年生に引き継ぎます。
- 第1学年は、モルモットの世話の引き継ぎを前に、第2学年のアドバイスや獣医師の指導を受け、モルモットを膝に乗せ、触れ合いました。
- 第5学年・第6学年の飼育委員会の児童が学校担当獣医師から、モルモットやチャボの生態や特徴、飼育環境や衛生指導、モルモットやチャボが安心できる抱き方などの話を伺いました。その後、飼育委員会の児童が、獣医師から教わったことを生かして、第3学年・第4学年・5学年の児童を対象に、モルモットとの触れ合い体験を実施しました。
- 学校担当獣医師が持参した心音機を使って、モルモットの心臓の音を聞くことを実施しました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師の御指導の下、実際に児童一人一人がモルモットを抱っこして命の温かさを感じるなど、体験的に学ぶことができました。
- 動物アレルギーのある児童については、遠くから動物を観察したり、ICT を活用して映像を見せたりと、授業の参加形態を考えました。

【児童の反応】

- 毎日観察日誌を付け、モルモットの体調や様子に気を付けながらお世話をすることができました。
- モルモットの適切な抱っこの仕方を知り、怖がらずにモルモットを抱っこできる児童が増えました。
- 毎日世話をしたり、鳴き声の持つ意味を考えたりして、モルモットの気持ちを受け止めて行動できるようになりました。



実践事例

青梅市立新町小学校

【実践の概要】

- 第1学年、第2学年の生活科の動物飼育の授業でウサギについて学習したり、いろいろな生き物を飼育する経験をしたりしました。
- 第5学年の理科「動物の誕生」の単元で、飼育しているウサギを一例に取り上げて、動物の体や出産について学習しました。



ウサギの抱き方を教えてもらいました

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 第1学年は、学校担当獣医師をゲストティーチャーに迎え、ウサギについて自分たちで調べても分からなかったことを質問したり、ウサギの抱き方を教えていただいて初めて膝の上でウサギを抱いたりしました。学校担当獣医師の指導の下、ウサギと人間の心音を聴き比べました。
- 第2学年は、実際に生き物を飼育した経験を基に、学校担当獣医師にいろいろな生き物の飼育方法や特性を教えてくださいました。
- 第5学年は、理科で人間の体と出産について学習をした後、学校担当獣医師をゲストティーチャーに迎え、動物の出産について高学年児童に分かるように話していただきました。

【児童の反応】

- 図書やタブレットでは調べられない専門的なことを学校担当獣医師に教えていただき、ウサギをはじめとするいろいろな生き物についての興味・関心を高めることができました。



5年生がオンラインで話を聞きました



実践事例

青梅市立第七小学校

【実践の概要】

- 第1学年を対象に、ウサギの心音と自分の心音を聴き比べることで「命」を感じる授業の実践しました。
- 第5・6学年を対象に、人間と他の動物の誕生や成長の比較をすることで「命」に対する考え方を深めたり、獣医師の仕事を通して、将来について考えたりする授業を実践しました。



- ・ 獣医師と一緒にウサギの心音を聴く様子 (左)
- ・ 5・6年生対象の授業のスライド (右)

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学級担任が指導案を作成し、推進事業担当教員と管理職、獣医師で指導案検討を実施しました。授業をするに当たって、学級に動物アレルギーの児童の有無を確認したり、授業後に皮膚などに異常が無いかの確認をしたりするなど、家庭との連携を図りました。
- 高学年にも獣医師と関わっていただきたいと考え、獣医師と共に高学年向けの授業内容を検討し実施しました。動物によって成長速度や寿命に違いがあること【命の学習】と、獣医師の仕事【キャリア学習】の2つの内容について、スライドを見ながら獣医師の話を聞き、学習しました。
- お便り、学校HP等を通じて、保護者・地域へ取組の紹介を行いました。

【児童の反応】

- 初めて聴く自分の心臓の音、動物の心臓の音に感動していました。ウサギの心音を聴くことで、ウサギが活着ていることを実感することができる貴重な体験をしました。また、獣医師が実際に使用している聴診器に触れることができ、満足感も味わうことができました。
- 動物が感じている時間の感覚と人間が感じている時間の感覚が違うことを学習して、「時間」に対する考え方を深める児童もいました。
- 獣医師の実際の仕事内容を知り、動物関係の職業に興味を抱く児童もいました。また、将来のことを考える時間となった児童が多くいました。

研修会に係る実践事例



推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。



実践事例

新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

本校では、低学年を担当している教員を中心に、日頃の飼育活動から気付いたことや疑問に思ったことを、授業の打ち合わせや授業などで来校された学校担当獣医師に質問を行い、飼育する上での留意点や飼育環境等について助言していただいています。また、児童は、獣医師の立場から児童に留意してほしいことや、新たに飼育するハムスターの特徴、飼育の仕方についての指導を受けました。



獣医師との打ち合わせを踏まえて準備する様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

事前に動物飼育担当の教職員と学校担当獣医師との間で打ち合わせを行い、飼育をする上での留意点や飼育環境等について、よりよい飼育が行えるように指導を受けました。

また、例年は動物飼育担当の教職員や地域・保護者・ボランティア中心に獣医師との研修を行っていましたが、今年度は、動物飼育担当の教職員と学校担当獣医師との研修会を行い、学校での飼育活動が、持続可能でよりよいものになるよう意見交換し、助言を受けました。

【教員の反応】

- 動物飼育活動の経験がある教員でも、「ヤギの飼育」については不安に感じることもありましたが、学校担当獣医師に確認することで安心して飼育活動に臨むことができました。
- 新たに動物を飼育するにあたり、飼育方法や配慮すべき点を専門的な見地から助言いただき、参考になりました。
- 動物飼育担当の教職員と学校担当獣医師との研修会を行ったことで、飼育方法についての不安なことについて助言を受けられ、また今後のよりよい飼育活動のあり方についても意見を交換することができました。



実践事例

中野区立白桜小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師をお招きし、モルモットを中心に、学校における動物の飼育についての意義と方法を学ぶ研修会を教員を対象に実施しました。
- モルモットの基本的な扱い方や、飼育の際に気を付けることなど、実践的なことも教えていただきました。
- 動物が持つウイルスや感染症などの対策について、獣医師から専門的なお話を伺いました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 教員から獣医師へ質問し、それに回答していただいたことで、今後の動物との関わり方や飼育環境について、具体的な改善策や方法を知ることができました。
- 冬休みに、モルモットを児童の家庭で預かってもらう「モルモットホームステイ」を実施しました。実施にあたっては、獣医師からの指導内容を基に、保護者向けに、小動物飼育説明会を実施しました。

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から指導を受け、学校での適切な飼育活動における、基本的な知識を身に付けることが出来ました。
- 学校担当獣医師との連携を図ることで、飼育動物の状態に異変があったときなどの具体的な対応を知ることができ良かったです。
- 生活科の授業で、モルモットの飼育の学習をするので、その事前知識を十分に得ることが出来ました。
- 動物飼育の経験がなかったのですが、その不安が解消されました。



実践事例

青梅市立第七小学校

【実践の概要】

- 獣医師による教員向けの講義を行いました（スライドを活用しながらの講義）。
 - ・動物の5つの自由について
 - ・学校で小動物を飼育する意義について
 - 動物は、「生きる」、「老いる」、「病氣」、「死ぬ」の4つを身をもって教えてくれる存在であること
 - ・今後の七小での飼育活動の在り方について
 - ・今年度の実践事例の振り返り

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 獣医師による教員向けの講義で、「学校担当獣医師や保護者等との連携」について以下の内容をお話しいただきました。
 - ・持続可能な飼育活動のために、地域に開いていくことが重要
 - ・七小という小規模校だからこそ、全校での動物飼育を、学校の教育活動として行っていくシステム作りの構築もできるのではないか
 - ・今後の飼育数の保持のために
 - オスの去勢手術は、年齢と手術による負担リスクを考え、実施しない
 - 飼育数を増やす場合は獣医に事前相談し、確実に飼育できる数を検討

【教員の反応】

- 動物を飼育する上での、教育上のメリットと責任感を再認識しました。
- 地域との連携や学校での体制づくりを早急に検討したいと思いました。



実践事例

青梅市立新町小学校

【実践の概要】

- ウサギの飼育環境管理について、管理職、動物飼育推進校担当教員、飼育委員会担当教員を対象に、学校担当獣医師から具体的な話をさせていただきました。



室内で療養中のウサギ

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 8月には、ウサギの繁殖制限処置の手術の必要性について教えていただきました。
- 12月には、手術後の体調管理について、手術後の飼育環境として、気温の調節や餌の与え方などの指導を受けました。
 - ・手術後は屋外の気温の低いところではなく、室内でもあっても夜間も気温の下がない場所を選び、飼育するようにアドバイスを受けました。療養に適した場所を実際に見ていただき、安心できる工夫やトイレの置き方など細かい点も教えていただきました。
 - ・餌の食べる量を観察することは難しいので、排せつ物で確認すること、ペレット以外に野菜などウサギにとって御馳走を与えてほしいことなど、具体的に教えていただきました。

【教員の反応】

- ウサギの繁殖制限の必要性と、雌だけの飼育であっても繁殖制限処置の手術がウサギの体にとって大切であることが分かりました。
- いつもと違う状態のときの飼育の仕方の注意事項が分かり、ウサギの様子に配慮することができました。